

2026年1月27日
イオン株式会社

和歌山県の地域未利用資源を活用したアップサイクル企画を始動

～『和歌山県産有田みかんクラフトエール』を販売開始～

イオン株式会社（取締役代表執行役社長：吉田 昭夫、以下「イオン」）は、株式会社伊藤農園（代表取締役：伊藤 彰浩、以下「伊藤農園」）、日本航空株式会社（代表取締役社長：鳥取 三津子、以下「JAL」）、株式会社 Beer the First（代表取締役社長：坂本 錦一、以下「BTF」）、株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員：半沢 淳一、以下「三菱UFJ銀行」）ともに、和歌山県のさらなる活性化に向けた取り組みとして、和歌山県産有田みかんの果汁と果皮を使用したアップサイクル^[1]商品である、クラフトビール『和歌山県産有田みかんクラフトエール』を考案し、2026年2月20日（金）から順次販売を開始します。

規格外みかんの果汁と果皮を使用することで、食品ロス削減に寄与するとともに、地域の未利用資源に新たな価値を生み出すことで、地域活性化への貢献を目指しています。なお、1月27日に和歌山県知事宛の表敬訪問を実施し、本取り組みについて報告をしました。

[1] 捨てられるはずの廃棄物に、新しい付加価値を加えて、元の製品よりも価値の高い別の製品に生まれ変わらせる取り組み



販売を開始する『和歌山県産有田みかんクラフトエール』

■背景・本取り組みの概要

和歌山県は、日本一のみかん収穫量を誇る一方、みかんをジュースなどへ加工する際に果皮が残渣として多く発生します。みかんの果皮は、従来主に肥料や飼料などとして活用されてきましたが、一方で豊かな香りを持ち、様々な栄養成分が含まれています。

そのため、これまでみかんピールやエッセンシャルオイルなどとして活用することで、付加価値を高める取り組みが進められてきましたが、一部の活用に留まっているのが現状です。

私たちは、こうしたみかん果皮の持つ可能性や課題に着目し、日本有数のみかんブランドである有田みかんの果皮をクラフトビールの原料として活用することで、地域資源に新たな価値を生み出すことを目指しています。



有田みかん畠の風景



みかん果皮のイメージ

今回の取り組みは、和歌山県内に支店を持ち、和歌山県が力を入れる宇宙産業との関係性が深い三菱UFJ銀行と、有田市で100年以上の歴史を持つ伊藤農園がみかん果皮の新たな活用方法について検討を始めたことがきっかけとなっています。

和歌山県と地域活性化に向けた包括連携協定を締結するイオン・JAL、クラフトビールづくりを通じて食品ロス削減に向き合うブルワリーブランドであるBTFが商品企画・開発・販売に携わることで、『和歌山県産有田みかんクラフトエール』が誕生しました。

【各社の役割】

会社名	主な役割
イオン	商品企画・販売、商品PR
伊藤農園	有田みかんの果汁および果皮の提供、商品企画・販売、商品PR
JAL	商品企画、商品PR
BTF	商品企画・販売、商品PR
三菱UFJ銀行	本取り組みの全体企画・取りまとめ

本取り組みを通じて地域の未利用資源に新たな価値を生み出し、和歌山県の活性化・発展に貢献するとともに、その魅力を発信することで人流・商流の創出につなげ、地域の持続可能性を高めることを目指しています。

イオンは、今後も地域の活性化に向けた取り組みを進め、地域社会の発展に貢献してまいります。

■商品概要

商品名	和歌山県産有田みかんクラフトエール
参考小売価格	本体398円（税込437.80円）
内容量・容器	350ml・缶
果汁	20%
果皮	3% ^[2]
アルコール分	5%
販売会社	株式会社 Beer the First (https://beerthefirst.com/)
販売開始日	2026年2月20日（金）以降順次
発売地域	イオンなど近畿圏のスーパーを中心に、全国販売

[2] 製造工程において、仕込み量に対して約3%相当の有田みかんの果皮を使用

■缶のデザイン

ラベルには、有田みかん畠の風景と和歌山県の新たな産業である宇宙産業をイメージしたロケットのイラストに加え、和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」や世界農業遺産「石積み階段園みかんシステム」のロゴマークをデザインしています。

■1月27日に行われた、和歌山県知事表敬訪問の様子



以上